

令和2年度 自己評価実践報告

学校名 安達高等学校

I 自己評価の概要

1 『学校経営・運営ビジョンについて』

(1) 『学校経営・運営ビジョンについて』(別紙)

(2) 今年度の重点事項作成のねらい

昨年度から引き続き5つの重点事項を

- ① 進路希望の実現
- ② 基本的生活習慣の確立
- ③ ESD活動・特別活動・部活動の充実
- ④ 教職員の指導力の向上
- ⑤ 開かれた学校づくりの推進 とした。

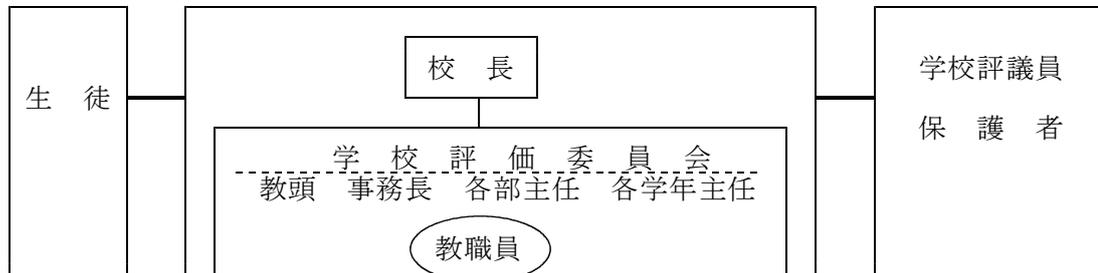
また、「安達高校の挑戦～創立100周年(2023年)へ向けて」を策定し、長期指針を示した。

(3) 作成のプロセス

校長が立案し、メッセージを加え、運営委員会で意見を聴取して修正を加え、職員会議に提示して教職員の共通理解を得て作成した。

2 校内組織体制について

(1) 組織図



【学校評価委員会の役割】

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none">○学校評価に関わる各種原案作成等<ul style="list-style-type: none">・評価項目の検討と評価表の作成・評価の実施と集計、分析、公表・評価結果に基づく改善原案作成等 | <ul style="list-style-type: none">○各種資料の収集、整理、保管○評価に関する広報活動○その他学校評価に関わること |
|--|---|

(2) 組織作成のねらい

校長のもとに評価委員会を設け、この委員会が自己評価及び外部評価の原案作成、実施、分析等をすすめる役割を持たせた。評価委員会は運営委員会が兼ねた。

3 自己評価年計画について

(1) 年間計画について

月	自己評価概要	学校評議員による外部評価
4	○令和2年度学校経営・運営ビジョンの策定 ○令和2年度各部、学年、各教科、努力目標策定 ○保護者等への学校経営・運営ビジョンの公表	○学校評議員の委嘱
5	○学校評価委員会開催 ・学校評価年間計画案の検討 ・学校評価に関するアンケート内容の検討	
6		○第1回学校評議員会 ・学校見学 ・学校経営・運営ビジョン等の説明
7		
8		
9	○学校評価に関するアンケート実施・回収	
10	○学校評価に関するアンケート集計・分析 ○学校評価委員会開催 ・学校評価に関するアンケートの分析	
11		○第2回学校評議員会開催 ・学校評価に関するアンケート結果 ・学校経営の状況説明
12		
1	○アンケート分析を踏まえた各部・各学年・各教科の努力目標に対する年度末評価	
2	○学校評価委員会開催 ・各部等の年度末評価について ・「自己評価実践報告書」について ○「評価書」の作成	○第3回学校評議員会開催 ・「自己評価実践報告」 ○学校評議員による評価の実施
3	○「自己評価実践報告書」「評価書」の県教育委員会への報告	

(2) 作成のねらい、意図

教職員の人事評価制度、各部・学年等の年度末反省、生徒・保護者による学校評価に関するアンケート、学校評議員による評価がそれぞれ連動し合うように年間計画を策定した。

II 評価結果の概要

1 実施方法等

項目	年度末評価			
	実施部署	評価	実施方法	コメント
教職員の自己評価	学校評価委員会	4分法による評価	アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度との比較のため、質問項目は変更しなかった。 ・今年度は、オンラインで実施した。保護者回答率が低下してしまった。
生徒による評価	学校評価委員会	4分法による評価	アンケート	
保護者による評価	学校評価委員会	4分法による評価	アンケート	
各部・学年・教科の努力目標に対する反省・評価	学校評価委員会		協議	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの反省評価を学校評議員会、学校評議員会、職員会議に提出した。
学校評議員による外部評価	学校評価委員会	記述	協議 アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・反省評価を踏まえ、検討していただいた。

○ アンケート集計については三者間比較及び経年比較を実施し、本校の教育活動で評価されている事項、評価されていない事項が分類別、時系列で明らかになるよう工夫した。

2 アンケート及び回答数

(令和2年9月調査)

評価		令和2年度アンケート			令和元年度アンケート		
		対象数	回答数	回収率	対象数	回答数	回収率
教職員		36	34	94%	35	27	77%
教職員以外	生徒	475	475	100%	523	514	98%
	保護者	475	294	62%	523	433	83%

○ 今年度は、アンケートの依頼と回収方法をオンラインで実施した。保護者の回答率が低くなってしまったが、慣れないことが原因だと思われる。事前に周知することで回収率を高めていきたい。

評価	A	B	C	D
評価基準	よくあてはまる (そう思う)	やや当てはまる (だいたいそう思う)	あまり当てはまらない (あまりそう思わない)	全く当てはまらない (そう思わない)

※傾向を把握しやすいよう4分法による評価基準とした。

ている」 92%（前年96%）
 「本校は、事故や問題等の防止についてきめ細やかに対応している」
 86%（前年90%）

③ 重点事項3「ESD活動・特別活動・部活動等の充実」について

今年度は、コロナ禍での学校生活となったため、学校行事をはじめ、特別活動、部活動が一番影響を受け本来の活動ができなかった。しかし、2学期に予定したESD発表会、修学旅行、小文化祭、芸術鑑賞は実施することができ、重点目標達成のために大変よかった。

ESD活動については、予定通りの9月3日に発表会を実施した。コロナ感染防止のため、現地調査やインタビュー活動が制限されたために、調査範囲や人数に影響しデータの信憑性が低くなったり、テーマ設定が社会へ向かず内向きの校内の課題を探究するなど例年とは発表内容が異色なものが多くなったがそれぞれの班が工夫して発表することができほぼ全員が達成感を持つことができたと思われる。

（生徒）「本校は、ESD教育が活発に行われている」 93%（昨年90%）
 （保護者）「本校はESD教育に熱心である」 91%（昨年94%）
 （生徒）「本校は、部活動に熱心に取り組んでいる生徒が多い」
 89%（昨年87%）
 （保護者）「本校は、部活動に熱心に取り組んでいる生徒が多い」
 88%（昨年95%）

④ 重点事項4「教員の指導力の向上」について

教職員のアンケート結果では、「研修活動が計画的に活発に行われている」について、今年度は肯定的評価が53%で、昨年度の48%より高い評価となった。

ICTを取り入れた授業実践や、教育週間を利用してお互いの授業を見学した。

ESD教員研修会では、外部講師による研修課を実施した。また、スクールカウンセラーを講師に招いた特別支援教育研修を実施した。

（教職員）「本校は目標や学習活動を示し、生徒の理解が深まるよう授業を工夫している。」 94%（昨年87%）
 （生徒）「本校の先生方の授業は、わかりやすい」 83%（昨年81%）
 （保護者）「本校の授業は、目標や学習活動が示され、理解が深まるよう工夫されている」 87%（昨年83%）

⑤ 重点事項5「開かれた学校作りの推進」について

ホームページの更新については、昨年度の反省を活かし、タイムリーは更新と積極的な記事の掲載に取り組んだ。コロナ関連の連絡についても学校ホームページを活用し、タイムリーに対応できたが、行事の報告や広報活動の一環として活用することができた。

次年度は、さらに多くの教員に記事の提供をお願いし、広報としてホームページを活用していきたい。

（生徒）「本校は、教育活動についてホームページや学年便りなどさまざまな方法で家庭・地域に情報発信をしている」 81%（昨年76%）
 （保護者）「 」 76%（昨年83%）

(3) ユネスコスクールとしての活動について

今年度は、ユネスコスクールとして予定していた活動の海外研修、マリールーズ氏の講演会が中止となり、校内での探究活動が中心となった。E S D発表会については、予定通りは実施できたので、代表のひと班を東北E S D発表会に派遣した。

教育活動が再開した2学期の11月に相双地区被災地合同研修ワークショップを磐城桜が丘高校と合同で実施した。双葉町の被災した建物と東日本大震災・伝承館の見学、ワークショップは防災教育は言うまでもなく、ユネスコスクールの原点を確認した有意義な体験活動となった。

来年度もコロナの影響で活動が縮小する見込みである。この期間に本校の今まで経過を踏まえ、学校全体でどのように教育目標を達成していくかE S D活動の取組の見直しを進めていきたい。

III 広報の概要

1 目的や意図

教育活動の状況とその評価を公表することは、学校としての説明責任を果たすことである。また、教職員、生徒、保護者、地域社会から意見を聴取することにより、なお一層の信頼関係を深めるとともに、本校の教育活動に対する関心を高め生徒募集につなげる。

2 実施計画、及び実施状況

月	実施計画・実施状況の内容
4	○ 学校ホームページに『学校経営・運営ビジョン』を掲載した。 ○ PTA総会で、『学校経営・運営ビジョン』を保護者へ配付し、校長より説明を行った。
6	○ 第1回学校評議員会で、『学校経営・運営ビジョン』を配付・説明するとともに学校の概況について説明した。
11	○ 第2回学校評議員会で授業参観を行うとともに『学校評価に関するアンケートの結果』について検討し、意見を聴取した。
2	○ 第3回学校評議員会で『努力目標に対する評価と反省』を配付・説明し、意見を聴取した。
3	○ 『学校評価に関するアンケートの結果』を学校ホームページに掲載した。

3 実施後の反省点

- (1) アンケートや年度末反省で浮かび上がった課題については、運営委員会・職員会議で報告共有を図ることができた。
- (2) 中学校への情報提供については、学校説明会や本校での体験入学等において本校についての理解を深めてもらっている。
- (3) 生徒募集につながる広報を工夫する。

IV 次年度に向けて

1 評価結果の特徴、自己評価実践の成果等

生徒・保護者アンケートの結果について、今年度もおおむね高い評価を得ることができたと考えている。しかし、生徒同士の意見の相違も感じられるところもあるので、評価結果の分析を共有し次年度に生かしていきたい。

今年度は、コロナの影響による「新しい生活様式」での学校生活を送ることになり、1年生は高校生活に慣れるか心配したが、個別面談、三者面談などで対応できた。

また、コロナ対応の評価は、生徒が74%、保護者が79%が適切と評価していた。

2 自己評価全体の次年度に向けての課題、改善、取り組み等

(1) 学校経営・運営ビジョンについて

「安達高校の挑戦～創立100周年（2023年）へ向けて」の中長期ビジョンを受けた学校経営・運営ビジョンを示していることから、本校特徴であるESD活動を活発にしていきたい。

(2) 組織について

学校評価委員を運営委員と同じメンバーとしたが、委員会としての活動に支障はなく、むしろ学校課題を検討する上で有効であった。

(3) 年間計画について

今年度実施して円滑に進めることができた。次年度も同様の計画で実施していきたい。

(4) その他

ホームページを積極的に活用しているが「生きたホームページになっているか」点検し、広報活動が生徒募集につながるよう努めていきたい。

また、ICTの活用が求められており、GIGAスクール構想への準備が進んでいるので適切に対応していきたい。

3 終わりに

今年度はコロナ禍の不安の中で新学期が始まり、教育活動が制限され、自宅待機や時差登校、夏休みの授業日への振り替えなど対応してきました。その時その時の状況から生徒の活動が制限されないよう対応してきました。生徒・保護者への連絡方法などは、来年度に引継ぎ安全・安心な学校経営に取り組んでいきます。

進路指導では、1か月遅らせた就職試験や新しい大学入学共通テストへの対応などありましたが、本校の特徴である生徒1人ひとりへ個別指導と生徒の頑張りが合致したこと。また、粘り強く諦めずに対応することができ成果もあげることができました。特に国公立大学11名の合格者はうれしい報告となりなした。

今年度の反省、経験を次年度に反映させていきたいと思えます。